

人口の特色をとらえよう

～生徒の主体的活動を中心とした単元の展開例～

仙台市立幸町中学校 岩淵雅安

1 はじめに

本単元は、学習指導要領の大項目3（世界と比べて見た日本）の中項目ア（様々な面からとらえた日本）にあり、世界的視野と日本全体の視野からわが国の国土の地理的認識を深め、地域間を比較し関連づけて地域的特色を追究する調べ方や学び方を身につけさせることをおもなねらいとしている。

小項目（イ）の人口から見た日本の地域的特色の内容は次のように示されている。

世界的視野から見て、日本は人口が多く、また、人口密度が高く、平均寿命が長い国であること、少子化、高齢化に伴う課題を抱えていることといった特色を理解させるとともに、国内では平野部に多くの人口が集中し、過密・過疎地域がみられることを大観させる。

私自身の反省として、前回この単元を指導した時には、調査活動（身近な地域等）に多くの時間を費やしてしまったこともあり、教科書資料の解説や問題集を利用した教師主導の一斉授業となってしまった。その反省を生かし、生徒の実態を考慮しながら、基礎・基本を押さえ（基）、作業的な学習（作）や思考判断する場面（思）など、生徒の主体的活動を中心とした単元の展開例を提案したいと思う。

2 学習指導の流れ

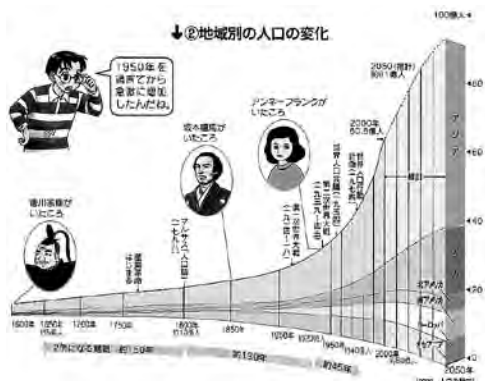
この単元は前の二つの大項目をふまえた学習であり、これまで学んできた内容の定着と応用、関連づけを考慮したものとする。

第1時 世界の人口分布

- （基）地図帳の活用
- （作）人口1億人超の国の白地図への記入
人口密度の計算
- （思）人口密度の高い国の住宅事情

地図帳と白地図を活用して世界的視野から見た日本の人口の様子を考える。地図帳の統計資料から人口1億以上の国を調べ、白地図に着色する（11か国）。また、人口密度の上位、下位2か国も同時に記入する。

人口密度の概念が定着していない生徒や計算を苦手とする生徒が多いため、最新の数値を使って日本の人口密度を改めて計算させて



みる（日本国勢図会08/09：342.6人）。都道府県の学習で調べた数字と比較し、人口は変動するものであり、とくに世界的規模では人口が急増していることを資料から読み取らせる。

また、赤道の確認をしながらシンガポールを例に人口密度の高い国の住宅事情について考えさせる（高層集合住宅等）。その際に既習の多摩ニュータウンや臨海部のマンション、マンハッタン島などとの関連を図る。



「中学生の地理 初訂版」p.65

第2時 日本の人口の変化と特色

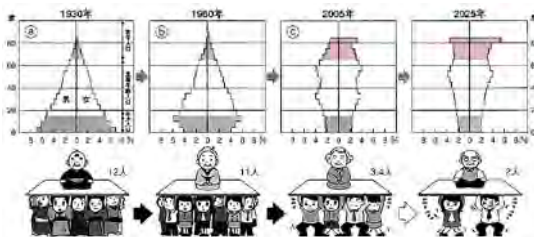
- (基) 日本の人口変化の読み取り
- (作) 人口ピラミッドの作成
- (思) 少子化対策には何が必要か

新聞記事を導入に使い、関心を高める。

女性85.99歳 男性79.19歳

日本人の平均寿命 過去最高

下図を用いて日本の人口ピラミッドの変化の特徴を発問を通してまとめていく。



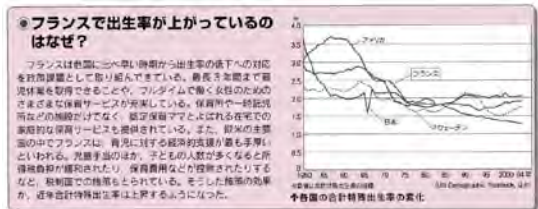
帝国書院「中学校スタンダード 地理資料・ワーク」p.83

少子高齢化が進む日本の課題を、下記の用語を用いてノートに箇条書きでまとめ、発表させる。

- ・富士山型
- ・つりがね型
- ・つぼ型
- ・少子化
- ・高齢化
- ・生産年齢人口等

次に作業としてフランスの人口ピラミッドを作図し（指導書ワークシート）、先進国の共通の悩みである少子化対策には何が必要か考えさせる。少人数によるグループで話し合いを行い、「合計特殊出生率を上げるためのプラン」を具体的に画用紙を使って掲示させる。

最後に資料を使ってスウェーデンやフランスの改善策の例を紹介し、各グループの案と比較する。詳細な内容への深入りをさけ、3年生で学習する公民への意欲づけとなるよう工夫する。



帝国書院「アクセス現代社会 2008」p.50

第3時 日本の人口分布

- (基) 都道府県の位置と名称
- (作) 白地図作業(都道府県のマーキング)

- ・人口(上位10位)
- ・増加率の多少(±2%) [2000~2005年]

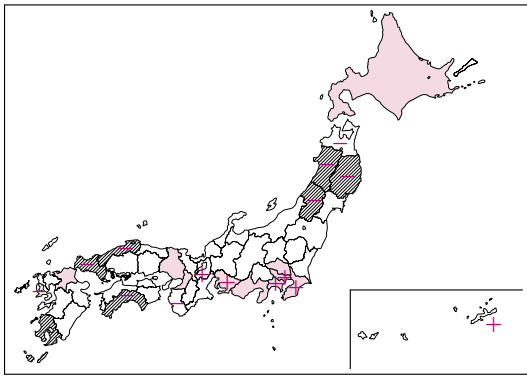
- + 東京 神奈川 愛知 千葉 滋賀 沖縄
- 青森 岩手 秋田 山形 和歌山 島根 山口 高知 長崎

- ・高齢人口率(25%超7県) [2007年]

- 岩手 秋田 山形 島根 山口 高知 鹿児島

- (思) 過密・過疎地域の把握と表現

白地図に人口の多い10都道府県を着色する。人口増加率の高い6都県に+、減少率の高い9県に-の記号を記入し、最後に高齢人口率

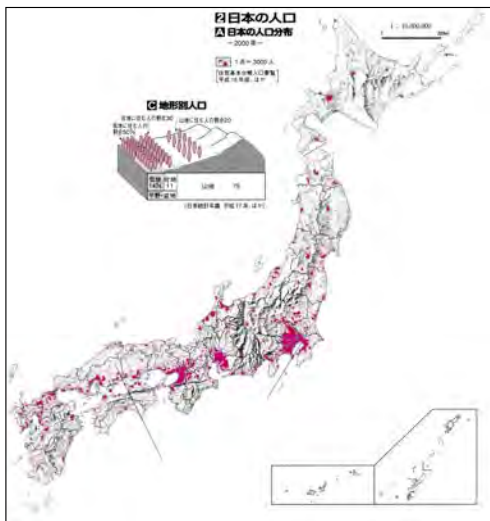


白地図作業の例

の高い県に斜線を入れる。白地図への作業を通して都道府県の名前と位置の再確認を行い、日本の人口分布や動態を把握させる。

人口が増えているところと人口が減少しているところの特色をグループで話し合い、磁石つきカードに記入し黒板に掲示する。共通点をまとめながらカードを分類し、三大都市圏に人口が集中していること（過密）や東北や山陰・南四国などに過疎地域がみられることを気づかせる。

また、同じ県でも地域差があることを地図帳の読図を通して把握させ、地形の面から人口の分布を考える。関東平野、濃尾平野、大阪平野をはじめ海沿いの平野部に人口が集中していることを理解させる。



「中学校社会科地図 初訂版」 p.118

第4時 宮城県の人口分布

(基) 身近な地域の復習

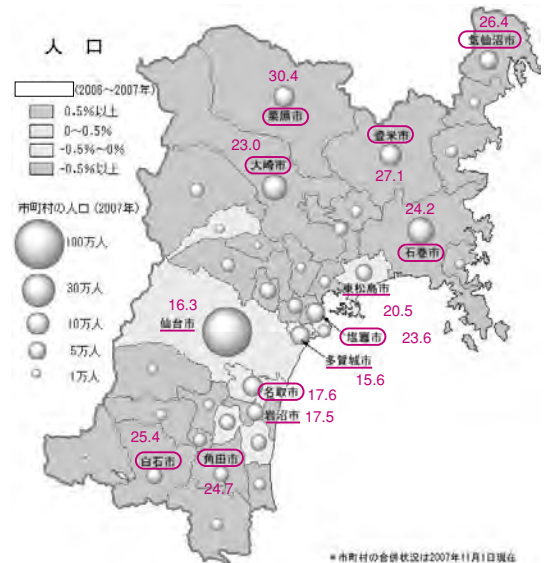
(作) 白地図作業

・人口増加率 ・高齢者人口割合

(思) 町づくりのアイデアづくり

カラー資料の人口増加率という言葉が消して、白黒で印刷し生徒に配布する。色の違いに着目し、消された言葉を考える。

次に身近な地域の学習で使用した副読本「わたしたちの宮城」の統計資料から県内13市の人口の増減（増：下線、減：囲み）と高齢者割合を記入する。



宮城県人口（帝国書院HPより）

市町村合併が進んだ今、市を取り上げることによって県内の特色をある程度考察することができるようになった。

資料からわかる県内の人口動態の特色を考察し、仙台から離れるに従って人口が減り、高齢化が進む傾向を押さえさせる。

高齢化・過疎化に悩む地方の様子を地方バス路線の廃止や病院・学校の統廃合など具体例を紹介し、人口減に歯止めをかける活性化プランづくりを行う。

ふまえて、教科書の資料や内容にそったものとする。教科書に記載されている豊富な資料を活用しない手はない。また、教科書通りに進まないと不安感を持つ生徒もいる。教科書を使って確認作業を行うことによって、知識の定着化を図り、

教師と生徒の理解のずれを修正し、前時までの学習で不十分だった内容や深めたい内容を学習することができる。

3 最後に

情報化が進み、様々な情報が氾濫する今、社会科では資料を正しく読み取る力がますます重要になっていくと思われる。

資料活用の力を伸ばす方法として、地理的分野の学習ではとくに地図帳を重要視してきた。地名や位置関係の把握はもちろん、気候・食生活から産業・統計にいたるまで、様々な資料が掲載され、教科書を使わなくても指導要領のねらいが達成できるよう構成されている。授業での利用頻度を高め、課題解決の情報源として生徒が自ら活用できるよう今後も継続した指導を行いたい。

また、思考を深め、正しい判断力を身につけるには話し合い活動が大切であると考え。1年生の入学時から折をみて練習を行っているが、3～4人の少グループによる話し合いが定着化しつつある。今後は話し合いの内容が深まるよう指導を続けたい。

まだまだ十分とはいええないが、生徒主体の活動を取り入れた授業をこれからも実践していきたいと考えている。

地方バス廃止に関する事例（宮城交通）国土交通省 総合政策局 交通計画課より

都市部に住む生徒にとっては現実感のない話題ではあるが、魅力ある町づくり（都会の人たちが住みたくなるような町づくり）という観点から考えるよう支援する。短時間の活動であり、抽象的な内容になってしまうことも考えられる。そのため、より具体的な方策を練るにはどうしたらよいかというところまで考えさせるようにし、発展的な学習へと広がることも視野に入れておく。

『予想される生徒の意見』

- ・インターネットによる情報収集
- ・田舎に住む祖父母（友人）に聞く
- ・市役所に直接問い合わせる 等

また、生徒の様子をみて、アイデアが出てこない場合は、県内最高高齢化率（2006、41.4%）の七ヶ宿町の取り組みを紹介する。

- ☆わらじで歩こう七ヶ宿
- ☆健康づくり推進プロジェクト
- ☆子育て環境充実プロジェクト

（総務省頑張る地方応援プログラム）

第5時 教科書の資料で確認しよう

単元のまとめとして確認テストを実施する（10～15分）。問題は前時までの既習事項を